

令和 2 年度

函館白百合学園中学校

オープン模試

国 語

令和 2 年 10 月 11 日(日)実施

注意事項

1. 試験時間は 45 分です。
2. 問題は□から□まであり、14 ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。



次の問いに答えなさい。

問1 次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

・先生の①シジで ②チャクセキする。

・③センキョで ④トウヒョウする。

・虫の⑤フシギな動きを ⑥カンサツする。

問2 次の――線のカタカナを漢字と送りがなに直しなさい。

① 彼女は基準をミタシている。

② ココロヨイ音色。

③ 同じアヤマチを二度としない。

問3 次の――線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 今朝は早く起きた。

② 有罪判決がでる。

③ 人情のあつい人。

④ その後の消息が不明だ。

問4 次の熟語の中で、――線をつけた漢字の読みが一つだけちがうものはどれか。ア～エから選びなさい。

① ア 口絵 イ 絵画 ウ 絵本 エ 油絵

② ア 体型 イ 原型 ウ 典型 エ 型紙

問5 次の漢字のうち、一画目が左払いから始まるものを、ア～オから二つ選びなさい。

ア 有 イ 原 ウ 反 エ 左 オ 成

問6 次の部首をもつ漢字を、ア～カからそれぞれ選**び**なさい。

① まだれ ② おのづくり

ア 新 イ 建 ウ 厚 エ 利 オ 庫 カ 痛

問7 次の語のうち、国語辞典で引いたとき最後に出てくるものはどれか。ア～エから選**び**なさい。

ア 中綿 イ 流れ ウ 半ば エ 仲よし

問 8 次の①～③の意味をあらわす熟語を、ア～エからそれぞれ選びなさい。

① 物事のおおもと。中心となるもの。

ア 機関 イ 期間 ウ 基幹 エ 気管

② いくつかの要素を組み立てて作られたもの。また、そのしくみ。

ア 公正 イ 構成 ウ 後世 エ 校正

③ 活動内容を知らせるために発行された印刷物

ア 会報 イ 快方 ウ 開放 エ 解法

問 9 次の各文には、まちがって使われている漢字が一つずつある。それをぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

① 一丁円の予算。 ② 領地を収める。

問
10

次の□にあてはまる言葉を、ア～カからそれぞれ選びなさい。

- ① 来週までに仕事に□をつける。
- ② 絵をかかせたら、あの人の□にでる者はいない。
- ③ 旅行者でにぎわっていた街が、今は□かげもない。

ア 見る

イ 左

ウ 立つ

エ 色

オ けり

カ 右

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

【ケース5】

部下 「〜ということでした」

上司 「ああ、お疲れ様」

部下 「あと、そういえばその時先方の加藤さんが、来期の①ハツチュウのことも言っていました」

上司 「あつそう。じゃあまた見積もりを出さなきゃね」

部下 「あと、その時に方式を少し変えることも検討したいと」

上司 「それなら一応2パターン考えておくかな」

部下 「あと、その方式なんですけど、A社みたいな感じのものもイメージしているそうで」

上司 「ああ、わかった」

部下 「あと、それに関連して……………」

上司 「……………1……………」

「あと……………」は私が最も迷惑だと感じている「余計な一言」です。②このケースでの上司の気持ちは痛いほどわかります。私も「あと」の被害をよく受けているからです。

私は、日頃、いろいろなメディアの取材を受けています。一日のうちに何本もインタビューを受けることもあります。その際、事前にインタビュアーは三〇分と約束していたのに、開始から三〇分が経った頃、「あと……………」を繰り返して質問する取材者がとても多いのです。そのインタビュアーのあとには、次の取材があるので、そうそう時間を割けません。

あ 私は取材の際は、事前に、メールや文書で、質問事項を送ってもらおうという形を採っていますので、それらを全部説明すべく準備し、てきばきと答えることにしています。

効率よく質問すべてに答えたつもりであっても、補足の質問が出てくること②ジタイは仕方がありません。こちらの答えによって、③アラたな質問が出てくるのは当然です。しかし、「すいません。あと……………」と④ツイカの質問が延々と続き、

本題から□逸れてしまうことも多いのです。3こうなると、事前の準備の意味がありません。一体いつ終わるのか、と不安になることもよくあります。

読者の方も、日常の会話で「あと……」への不快感をもたれた方も多いと思います。

「あと」という言葉は、予告なく話がツイカされ、さらに終わりが見えないという*無間地獄のような4□質な「余計な一言」だと私は考えています。

私は5「あと」という言葉を、「人間の成長度を測る*バロメーター」にしています。

というのは、学校の教育現場を見てくるとよくわかるのですが、「あと」は小学生が多用する言葉なのです。とにかく次から次へと、「あと、あと」と言い続ける。小学生ならば許されますが、大学生や社会人が同じようにしゃべっているのを聞くと、とても違和感があります。精神的に幼く、社会性が*希薄な人だと思ってしまうのです。

6「あと」を多用する人は、全体の話の着地点が見えていないうえに、どこで話が終わるか、よく考えていません。まるで、結末を考えないままに小説を書き始めた素人みたいなものです。結末やオチがわからないので、思いつくまま、論旨の展開も登場人物の描写も7まちまちのまま、どんどん書いていく。これではまともな小説にはなりません。

喫茶店で友人同士が気楽なおしゃべりをするのなら、「あと」が連発されてもいいのです。しかし、ケース5は、会社での業務報告の場面です。こういう場において普通の大人は、頭の中で言うべきことを整理したうえで伝えるようにします。社会人の心得としては、優先順位の高いものから説明するということが常識ですが、幼稚な人にはこれができないのです。話したい事項がいくつあるのかを最初に伝えるのは、一つのやり方でしょう。

□う「要点が三つあります」と前置きし、順番に話していけば、報告を受ける上司も安心して聞いていられます。それ以外の細かいことについては、5コウトウではなく文書にするというのもいいでしょう。「ツイカの案件は文書でご報告しますので、後ほどご検討ください」とすれば円滑に運びます。

ところが、8その最初の提示がないと、重要な報告がまだあるのかもしれないと思わせ、終わりが見えないいらだちも生みます。

では、報告ではなく、取材などの際にはどうすればいいのでしょうか。先述したように、用意した質問以外に、*派生的な質問や、取材過程で新しい疑問が浮かんでくることはよくあります。

これは致し方のないことですが、9こういう場合も、やはり「あと」はつかわないほうがいいでしょう。たとえば、「あと」ではなくて、「今のお話をうかがっていますと……」「お話をうかがったうえで、興味が湧いたのですが……」とい

うように、前の話の流れとつなげて聞いていくのです。話には流れがありますから、その流れを止めないように注意して話せば、相手も乗っていきやすいものです。

(「余計な一言」齋藤 孝)

出題の都合上、小見出しなどは省略し、漢字など表記を改めました。

無間地獄 …… 仏教の言葉で、悪人があの世で永遠に苦しみ続ける地獄。

バロメーター …… 状態をはかる目安となるもの。

希薄 …… うすいこと。

派生 …… もとになるものから分かれて生じること。

問 1 〓〓 線①～⑤について、カタカナを漢字に直しなさい。

問 2 〓 線 1 には 〓 線 2 「このケースでの上司の気持ち」と同じ気持ちを表す言葉が入る。ア～エから適切なものを選びなさい。

- ア ウンザリ イ ワクワク ウ ドツキリ エ ハラハラ

問 3 空らん あ う に入る言葉として適切なものを、ア～エから選びなさい。同じものは二度選べない。

- ア だんどん イ まず ウ まさか エ そもそも

問 4

——線3 「こうなると」とは、どのようなことになるか。最も適切なものを、ア～エから選びなさい。

ア てきばきと答えているつもりでも、深いところまで事前に考えていなかったため、質問に答えられなくなることに。
イ 事前に送ってもらっていた質問以外の答えは準備していないので、まったく答えられず、恥^{はじ}をかくことになること。
ウ 予定以外の補足の質問はいつきい受け付けられないつもりなのに、相手が質問してきて、つい口ごもるようになること。
エ インタビューが何本もあるので、効率よく答えたかったのに、事前準備のいかにもなく、話がそれるようになること。

問 5

——線4 「□質」の□に入る言葉として最も適切なものを、ア～エから選びなさい。

ア 人

イ 悪

ウ 上

エ 良

問 6

——線5 「人間の成長度を測る^{はか}バロメーター」とあるが、「あと」という言葉を使う大人をどういう人だと筆者は考えているか。それを説明した次の文の□にあ、う、い、えのいずれかを入れてください。ただし、□にあ、う、い、えのいずれかを入れた場合は、その前後の語句をそのまま用いて答えなさい。句読点も一字と数える。

□う□は（ ）内の字数で本文中から書きぬき、□い□は本文中の言葉を用いて答えなさい。句読点も一字と数える。

「あと」を多く使う大人は、□あ□(十四字)人であり、□い□のために、頭の中で言うべきことを整理できず、□う□(二十字)ができない幼稚な人だと、筆者は考えている。

問 7 線 6 をたどっている部分を本文中から二十字以内でさがし、はじめと終わりの三字を答えなさい。

問 8 線 7 「まちまち」の意味として適当ではないものを、ア～エから一つ選びなさい。

- ア 統一性がないこと
- イ ふぞろいであること
- ウ ごちやまぜであること
- エ こぢんまりしていること

問 9 線 8 「その最初の提示」の内容として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 「すみません。あと……」
- イ 「要点が三つあります」
- ウ 「ツイカの案件は文書でご報告しますので、後ほどご検討ください」
- エ 「今のお話をうかがっていますと……」

問 10 線 9 「こういう場合」とはどういう場合か。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

友人A 「いやいやいや、この前は本当にごめんごめんごめん」

友人B 「まあいいよ。何か大変だったんでしょ」

友人A 「そうそうそうそう」

友人B 「それはそうと、①ダイキンは返してね」

友人A 「うんうんうん、ごめんごめんごめん。すぐすぐすぐ」

友人B 「……………」

同じ言葉をリピートする人がいます。

言葉というのは、短く一言を放った時にその重みを増しますから、このように繰り返してしまうと、言葉がどんどん軽くなるのです。同時に相手に与える自身の印象も軽くなってしまいます。

昔は、こういう人は、大人でも子どもでも「返事は一回でよい」とよく注意されたものです。「はいはい」「はいはいはい」などと繰り返して答えれば答えるほど、聞いていないことを伝えているようなものです。

この背景には、二つの心理が隠れています。

相手の言葉を遮りたい、相手から自分を守りたいという②意図が一つ。続けて言葉を繰り返すことで、相手はしゃべる気が失せてしまいます。

もう一つが、一言一言の重みをわざと軽くしていくという意図です。

わざと軽くすると、どんな①メリットがあるのでしょうか。謝罪する際に、「ごめんごめんごめん」と二〜三回リピートすることは、「ごめんなさい」という一言よりも随分軽くなります。すると、言うほうは疲れないのです。本来、「ごめんなさい」という一言は、思いをためて、感情を整えてからでない、なかなか言えません。つまり、その分、疲れるわけです。

ところが、言葉に感情を乗せないと、疲れない。だから**2**□意識のうちに、同じ言葉をリピートしてしまうわけです。これが癖くせになっていく人も多いのです。

しかし、もちろんこんな癖のある相手に、**3**人は好感を持ちません。言葉に心がこもっていない、**4**□誠実な人だと見られるのがオチです。

たとえば、こちらのミスで顧客こきやくに謝る時、「すいませんでした、すいませんでした、すいません」など何回も繰り返すと、誠意が伝わるどころか、言葉の重みが消えていきます。

自分自身を守ろうとしている、失敗を深いところではきちんと受け止めようとしていない、早くやり過ぎそうとしている、という思いが透すけて見えます。それで結局、顧客をもっと怒おこらせることになってしまふのです。

本心から謝るには、感情の“ため”をつくることで、言葉と感情をうまく一致いっちさせる必要があります。そして、重みのある一言で**5**気持きもちちを伝えるのです。

感情の“ため”がない人は、言葉と感情を合致がっちさせる作業をしていません。言葉だけが、軽く流れていってしまうので、むしろ、相手の感情を傷つけてしまいます。

言葉の重みについて、ある時、歌舞伎役者の坂東玉三郎さんと明治大学で対談する**3**キカイキカイがありました。数百人ほどの聴衆ちゆうしゆを前に、玉三郎さんはこんなことを語ってくださいました。

「感情と言葉を、**6**上手うずに重ね合わせるのが本当に大事なんです。一二つをぴったり重ね合わせないとだめです。

言葉だけが先走ると、感情がついていっていない。感情だけを出そうとすると、今度はセリフが弱くなり、言葉が弱くなってしまふ」

さらに実演をその場で見せてくださいました。

「真如しんによの月を眺め明かさん」

というセリフで、感情とその言葉が一致するように動かれるのです。ポイントは、体のつかい方だ、ということでした。思いと同調させながら、手の差し伸べ方や足の出し方などにそれを表していく。仙骨せんこつという腰こしの骨から手の先まで、月に向かって伸ばしていく。そんな意識を持ち、思いを体に乗せて体現していくそうです。

身体に、感情と言葉をくぐらせるように同調させて、セリフを**7**言ことわられている。その身体感覚のようなものを、身近で感じて本当に感動しました。

無駄むだにリピートする言葉は、この**4**タイキヨクタイキヨクにあります。

玉三郎さんには及びませんが、私たちが一言に重みを出すには、一瞬いっしゆんでよいので、感情の“ため”を作り、一呼吸おいてから、思いを一言で表現するように心がけるべきでしょう。そうすれば、感情と言葉の一体化に近づくのではないのでしょうか。

(「余計な一言」 齋藤 孝) 出題の都合上、小見出しなどは省略し、漢字など表記を改めました。

問 1 〓線①〓④について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問 2 〓線 1 「メリット」という言葉の意味を、簡単に説明しなさい。

問 3 〓線 2 「□意識」、4 「□誠実」の□に入る否定の意味の漢字一字を、それぞれ答えなさい。

問 4 〓線 3 「人は好感を持ちません」とあるが、「好感を持たない」ことを表す慣用句を、ア〜カから二つ選びなさい。

- ア ひぎを交える
イ そりが合わない
ウ 虫が好かない
エ 馬が合う
オ 気が置けない
カ 腹をわる

問5 線5 「気持ちを伝える」とあるが、「考えていることが言葉を使わずにお互い通じ合うこと」を意味する四字熟語の「いしんでんしん」を漢字四字に直しなさい。

問6 線6 「上手」はここでは「じょうず」と読むが、別の読み方もある。下の意味になるように、

いに入る「上手」の読み方をひらがなで答えなさい。

【読み】

【意味】

じょうず・・・物事のやり方がうまく、てぎわが良いこと。

あ・・・舞台ぶたいの、客席から見て右のほう。川の上流のほう。

い・・・技能・学力などが他よりも優すぐれていること。

問7 線7 「言われている」とは、誰が「言われている」のか。ア～エから選びなさい。

ア 観客が（言われている）

イ 筆者が（言われている）

ウ 歌舞伎役者の坂東玉三郎さんが（言われている）

エ 真如が（言われている）

国語

受験番号

名前

合計

一

問 1 ① シ ② ネクサキ ③ ゼンキョ ④ よむじやく ⑤ フシキ ⑥ カンサツ

問 2 ① ニタン ② ココロヨイ ③ アヤマチ

問 3 ① ② ③

問 4 ① ② 問 5

問 6 ① ② 問 7

問 8 ① ② ③ 問 9 ① まろがし → 互し ② まろがし → 互し 問 10 ① ② ③

小計

二

問 1 ① ハツチヨ ② シタイ ③ アラ たな ④ ツイカ ⑤ コウトウ

問 2 問 3 あ い う 問 4 問 5

問 6 あ

い

う

問 7 し 問 8 問 9

問 10

小計

三

問 1 ① タイキン ② 意図 ③ キカイ ④ タキヨク

問 2

問 3 ② 意識 ④ 誠実 問 4 問 5

問 6 あ い 問 7

小計

国語

受験番号

名前

合計
100

一

問 1 ① 指示 シジ ② 着席 チカセキ ③ 選挙 センキョ ④ 投票 トウヒョウ ⑤ 不思議 フシギ ⑥ 観察 カンサツ

問 2 ① 満たし ミタン ② 快い ココロヨイ ③ 過ち アヤマチ

問 3 ① けさ ② ゆうぞい ③ にんじょう ④ しょうそく

問 4 ① イ ② エ 問 5 ア オ 問 6 ① オ ② ア 問 7 ア

問 8 ① ウ ② イ ③ ア 問 9 ① 丁 まろがし → 兆 ちし ② 収 まろがし → 治 ちし 問 10 ① オ ② カ ③ ア

問 1~問 10 各 1 点

小計 30

二

問 1 ① 発注 ハツチヨウ ② 自体 ジタイ ③ 新 アラ ④ 追加 ツイカ ⑤ 口頭 コウトウ 各 1 点

問 2 ア 3 点 問 3 あ 工 い ア う イ 各 2 点 問 4 工 3 点 問 5 イ 3 点

問 6 あ 精神的に幼く、社会性が希薄な 3 点

い 全体の話の着地点が見えていないうえに、どこで話が終わるか、よく考えていない 6 点

う 優先順位の高いものから説明するということ 3 点

問 7 結末を、た素人 各 2 点 問 8 工 3 点 問 9 イ 3 点

問 10 取材などで、用意した質問以外に派生的な質問や疑問が浮かんできた場合。 5 点

小計 47

三

問 1 ① 代金 ダイキン ② いと 意図 ③ 機会 キカイ ④ 対極 タイキョク 各 1 点

問 2 良い点。都合のよい点。 3 点

問 3 2 無意識 4 不誠実 問 4 イ ウ 問 5 以心伝心 各 2 点

問 6 あ かみて い うわて 問 7 ウ

問 3~問 7 各 2 点

小計 23

□ 漢字・語句問題

問1 漢字の書き取り

形の似ている漢字や、同音異義語、同訓異字などが問われやすい。「先生の①シジで着席する」という問題と、「虫の不思議な動きを⑥カンサツする」に注目したい。

- 「シジ」は同音異義語がたくさんあるので、意味を確認し、文脈に合う熟語を選ぼう。
- 「支持」…意見に賛成して、後押しすること
- 「指示」…命令すること。そのことと指し示すこと
- 「師事」…自分の師としてつかえ、教えを受けること
- 「私事」…個人的なことから

今回は「先生が生徒に命令して、生徒が着席する」という意味なので、「指示」が正解となる。同音異義語は意味を確認した上で、例文ごと覚えると理解がすすむ。

● 「カンサツ」の「カン」を書く時に「観」「勸」「飲」などの漢字で迷った人もいるかもしれない。形の似ている漢字ほど、はじめて練習するときに、意味や部首も一緒にしっかりと覚えておこう。

観…見ること

勸…すすめること

飲…よるこぶこと

問4 漢字の読み書き

① 「繪」の読み方

ア 口繪（くちえ）

イ 繪画（かいが）

ウ 繪本（えほん）

エ 油繪（あぶらえ）

「繪」を「かい」とただ一つ読んでいるイが正解となる。

② 「型」の読み方

ア 体型（たいけい）

イ 原型（げんけい）

ウ 典型（てんけい）

エ 型紙（かたがみ）

「型」を「けい」ではなく「かた」と読むエが正解である。

問5 筆順

「左払い」とは、例えば「有」のように左へ向けて「払う」部分。

一画目の判断が難しい漢字を参考までに次にのせた。一画目がわからないものは自分で調べてみよう。

必世北巨

問6 部首

新

部首「おのづくり」

利

部首「りつとう」

建

部首「えんによう」

庫

部首「まだれ」

厚

部首「がんだれ」

痛

部首「やまいだれ」

問7 国語辞典の語順

一般的な国語辞書では、言葉は五十音順に並んでいるので、今回はウ↓エ↓イ↓アの順になる。今回は一文字目がすべて「な」、二文字目が「か」か「が」から始まる言葉だったので、三文字目で判断しよう。実際に辞書を引き、次のような順番であるか、確認してみよう。

ウ	半ば	(なか	ば)
エ	仲よし	(なか	よし)
イ	流れ	(なが	れ)
ア	中綿	(なか	わた)

問8 同音異義語

きかん ア 機関：エネルギーを力にかえる装置（そうち）やからくり

ある目的を達成するために作られた組織

イ 期間：ある時点からある時点まで続く時間

ウ 基幹：物事のおおもと。中心となるもの

エ 気管：空気をとり入れるために動物などに見られる器官

こうせい ア 公正…公平である様子

イ 構成…いくつかの要素の組み立て

ウ 後世…自分たちの生きている時代のあとに来る時代のこと

エ 校正…印刷物の字句や内容などを修正すること

かいほう ア 会報…会の活動を報告する文書

イ 快方…病気や傷がだんだん治ってくる

ウ 開放…あけ放つこと

エ 解法…問題を解く手順

問9 誤字訂正

① 一丁田の予算。 「丁」↓「兆」

兆は数の単位。一億の一万倍

② 領地を収める。 「収」↓「治」

「領地を治める」は土地などを平和な状態に保つこと

問10 慣用句

① かたをつける …争いごとを解決しようとする

② 右に出る者はいない …実力で勝てるものがない

③ 見るかげもない …みすばらしくて、見られたものではない

二 説明文

出典は教育学者の齋藤孝氏による『余計な一言』である。二〇〇〇字程度の文章であった。

問1 漢字の書き取りの問題

すべて小学五年生までに習う漢字からの出題となった。しかし「発注：注文をすること」も「〇〇自体：〇〇そのもの、そのこと」も「口頭：口で、口先で」も皆さんが日常生活で使う言葉ではないかもしれない。漢字自体は低学年で覚えたものでも、日常的に使わない熟語になると漢字に直せない場合がある。普段から、ニュース等で耳にした言葉がどのような漢字なのか意識して過ごそう。今回は、「ジタイ」が難しい熟語であった。意味を確認しよう。

【ジタイ】

事態：事のなりゆき

自体：そのもの

辞退：すすめられたことを断ること

字体：文字の形

問2 心理的表現の読み取り

——線1の（ ）は——線2と同じ「気持ち」の言葉が入るとあるので、——線2の「気持ち」について考えていこう。

「あと……」は私が最も迷惑だと感じている「余計な一言」です。**2**このケースでの上司の気持ちは痛いほどわかります。私も「あと」の被害をよく受けているからです。

——線2の前後には、「あと」と言われることで「私」が「迷惑だと感じている」ことが書かれている。また、「私も」という表現があり、気持ちが変わると書かれているので、「私」と「このケースでの上司」は同じ気持ちであることがわかる。それは、何度も「あと」を繰り返されていやになる、という気持ちである。

「ウンザリ」は「嫌気がさして、もうたくさんだ」という気持ちであり、これが正解となる。

問3 空らん補充の問題

今回は、動作・状態を説明する言葉（副詞）を出題した。「すぐに」「さっそく」「いつも」「とても」「かなり」「ちょっと」などは時間や程度などをあらわす副詞である。前後の文脈を読み取り、適切な語を選び取ろう。

今回は「あ」が一番難しかった。こういう場合は、他のわかりやすいものからあてはめていこう。特に今回は「同じものは二度選べない」とあるので、残ったものをあてはめて文脈を確認するとよい。

●空らん について

「すみません。あと……」と追加の質問が延々と続き、本題から 逸れてしまうことも多いのです。

に入る言葉は「逸れてしまう」にかかるので、選択肢の中で「どんな風に」逸れて、外れていくのかを説明している言葉を探そう。すると解答は「どんどん」となる。

●空らん について

話したい事項がいくつあるのかを最初に伝えるのは、一つのやり方でしょう。

「う」 「要点が三つあります」と前置きし、順番に話していけば、報告を受ける上司も安心して聞いていられます。

「う」の前後を確認すると、同じ内容を繰り返しているのがわかる。

「前置きし」に直接かかる言葉で選択肢のうちから適当なものを探すと、解答はイの「まず」となる。これは、前文の「最初に」とほぼ同じ意味になる。

●空らん あ について

残ったウ「まさか」とエ「そもそも」のどちらも当てはめてみて、文脈のあうエが正解となる。「まさか」は、「まさか、考えられない」など「くない」のような否定の言葉をとまなう表現なので、当てはまらない。

問4 指示語の内容把握

「すいません。あと……」と追加の質問が延々と続き、本題から逸れてしまうことも多いのです。3こうなると、事前の準備の意味がありません。一体いつ終わるのか、と不安になることもよくあります。

——線3「こうなると」は、直前に書かれている追加の質問が延々と続き、本題から逸れてしまうことを指す。

アウは、次に波線をつけた部分が本文からは読み取れない。従って正解はエ。

ア てきばきと答えているつもりでも、深いところまで事前に考えていなかったので、質問に答えられなくなる。
イ 事前に送ってもらっていた質問以外の答えは準備していないので、まったく答えられず、恥をかくことになる。
ウ 予定以外の補足の質問はいっさい受け付けないつもりなのに、相手が質問してきて、つい口ごもるようになる。
エ インタビューが何本もあるので、効率よく答えたかったのに、事前準備のかいてもなく、話がそれるようになる。

問5 内容に合う熟語を選択する問題

さらに終わりが見えないという無間地獄のような4 □質な「余計な一言」だと私は考えています。

まず、——4 は「□質な」とあるので、「な」につながる言葉を選ぼう。ア「人質」は「な」につながるので解答から外れる。

次に、——4の前には「無間地獄のような」とある。無間地獄とは「悪人が永遠に苦しみ続ける地獄」という良くない意味なので、イの「悪質」を選ぶのが適当である。

- ア 人質（ひとじち）…交渉を有利にするために、ある人をつかまえておくこと
- イ 悪質（あくしつ）…たちが悪い様子
- ウ 上質（じょうしつ）…品質が上等である様子
- エ 良質（りょうしつ）…質がすぐれている様子

問6 内容を説明する問題

次のあ、うの空らん言葉を入れて、5についての説明文を完成させる問題。
あ、うは本文中の言葉で説明する。

「あと」を多く使う大人は、あ人であり、いために、頭の中で言うべきことを整理できず、うができない幼稚な人だと、筆者は考えている。

文のはじめに「あと」を多く使う大人は、とあるので、「あと」を多く使う大人について述べている箇所を本文中から探す。

私は5「あと」という言葉を、一人間の成長度を測る「バロメーター」にしています。

というのは、学校の教育現場を見てくるとよくわかるのですが、「あと」は小学生が多用する言葉なのです。とにかく次から次へと、「あと、あと」と言い続ける。小学生ならば許されますが、大学生や社会人が同じようにしゃべっているのを聞くと、とても違和感があります。精神的に幼く、社会性が希薄な人だと思ってしまうのです。

「あと」を多用する人は、★全体の話の着地点が見えていないうえに、どこで話が終わるか、よく考えていません。まるで、結末を考えないままに小説を書き始めた素人みたいなものです。結末やオチがわからないので、思いつくまま、論旨の展開も登場人物の描写もまちまちのまま、どんどん書いていく。これではまともな小説にはなりません。

喫茶店で友人同士が気楽なおしゃべりをするのならば、「あと」が連発されてもいいのです。しかし、ケース5は、会社での業務報告の場面です。こういう場において普通の大人は、頭の中で言うべきことを整理したうえで伝えるようにします。社会人の心得としては、優先順位の高いものから説明するということが常識ですが、幼稚な人にはこれができないのです。

「あとを多用する人」の前後を読んでみよう。すると、「あと」は小学生が多用する言葉とある。続けて読むと、「あと、あと」と言い続ける人」は、小学生のような大人、つまり精神的に大人ではなく子どものような人であることが述べられている。あに「幼稚な」や「全体の話の着地点が見えていない」を入れると字数が合わないため、解答としてふさわしくない。線の部分のあとだけ見るのではなく、文章全体を広く見渡す必要がある。

うには、「言うべきことを整理できず」に、どうなるか、その結果を述べる。「幼稚な人にはこれができない」の「これ」という指示語が何を指しているか、確認しよう。ここでは二重傍線で示したところが「これ」の内容となる。

い の空らんでは、本文中の言葉を用いて説明することになる。ここに入れるべき内容は、「頭の中で言うべきことを整理でき」ない原因であるので、★部分の表現を元にして次のようにまとめるとよいだろう。

「あと」を多く使う大人は、

あ：精神的に幼く、社会性が希薄な人であり、

い：全体の話の着地点が見えていないうえに、どこで話が終わるか、よく考えていないために、頭の中で言うべきことを整理できず、

う：優先順位の高いものから説明するということができない幼稚な人と、筆者は考えている。

問7 比喩表現の書きぬき

6をたとえている部分を書きぬく問題だった。本文を続けて読むと、

6「あと」を多用する人は、全体の話の着地点が見えていないうえに、どこで話が終わるか、よく考えていません。まるで、結末を考えないままに小説を書き始めた素人みたいなものです。

とある。「まるで」のようだ(みただ)」「あたかも」のようだ」は何かをたとえるときに使う表現である。解答は□で囲んだ部分となるのではじめと終わりの三字を書きぬこう。この問題は、問6と同じ流れの中で考えるとよいので、前述の問6の解説をもう一度確認してほしい。

問8 言葉の意味

「まちまち」は、「ばらばらでまとまりのない様子」という意味である。「統一性がない」、「ふぞろいである」、「ごちゃまぜである」はだいたい同じ状態を意味するがエ「ごちんまりしていること」は「小さいなりによく整っているさま」という意味である。

問9 内容把握

——線8「その最初の提示」に当てはまる内容を選ぶ問題。本文では、次のように書かれていた。

話したい事項がいくつあるのかを最初に伝えるのは、一つのやり方でしょう。

う 「要点が三つあります」と前置きし、順番に話していけば、報告を受ける上司も安心して聞いていただけます。それ以外の細かいことについては、コウトウではなく文書にするといいでしょう。「ツイカの案件は文書でご報告しますので、後ほどご検討ください」とすれば円滑に運びます。

ところが、8その最初の提示がないと、重要な報告がまだあるのかもしれないと思わせ、終わりが見えないいらだちも生みます。

——線8 「その最初の提示」とは、話したい事項がいくつあるのかを最初に伝えるということである。「要点が三つあります」と前置きすることで、聞き手は話される事項が三つあることがわかり、「終わりが見えないらだち」も生じない。他のア、イ、エでは「話したい事項がいくつあるのか」わからない。よって解答は、イの「要点が三つあります」となる。

問10 指示語の内容

では、報告ではなく、取材などの際にはどうすればいいのでしょうか。先述したように、用意した質問以外に、派生的な質問や、取材過程で新しい疑問が浮かんでくることはよくあります。
これは致し方のないことですが、**9** こういう場合も、やはり「あと」はつかわないほうがいいでしょう。

——線9 「こういう場合」の含まれる一文を見てみよう。「これは致し方のないことですが、こういう場合も」とあるので、「これは」の指している内容と同じことがわかる。そこから考えてみよう。

「報告ではなく、取材などの際」だけでは内容が不足している。「用意した質問以外に、派生的な質問や、取材過程で新しい疑問が浮かんでくること」と合わせて解答すると良い。

【三】漢字・語句に関する問題

言語知識や言語感覚を問う問題。【二】と同じ出典で、文の量は一七五〇字程度。「言葉の重み」について書かれていた。

問1 漢字の書き取り、読み

【二】の問1と同様、ここでも同音異義語や訓読みの漢字が問われている。

【キカイ】

機械：複雑な（主に電気仕掛けの）道具

器械：単純な小型の道具

機会：チャンス

きかい
奇怪：不思議

問2 外来語の意味

「メリット」は「利点・価値」「手柄・功績」などの意味がある。今回は「良い点」「都合のよい点」などの意味となる。

外来語は日々増加している。日常生活の中で意味を確認していこう。

問3 否定の意味の漢字をつける問題

否定の意味の漢字というのは、たとえば「不」・「無」・「非」・「未」などのことである。ある語の上につくことで、その語に「〜ない」「〜ではない」「まだ〜ない」などの意味を付け足す働きをする。

- 2 「□意識」の□に入るのは「無」である。「無」は「〜がないこと」を意味する。
- 4 「□誠実」の□に入るのは「不」である。「不誠実」で「誠実ではないこと、ふまじめであること」を意味する。

問4 慣用句

慣用句の意味をしっかりと確認しよう。

- ア ひざを交える　　：　同じ席で親しく打ち解けあう（仲が良い）
- イ そりが合わない　：　人や時代との相性が悪い
- ウ 虫が好かない　　：　なんとなく気に食わない
- エ 馬が合う　　　　：　意気投合する。気が合う。（仲が良い）
- オ 気が置けない　　：　心から打ち解けることができる（仲が良い）
- カ 腹をわる　　　　：　本心を隠さずのうちあける。（仲が良い）

特に「気が置けない」は意味を間違えやすい慣用句である。「気が置けない」は「気を遣わ^{つか}ない」に「遠慮^{えんりよ}なくいら^いれる仲の良い様子」と覚えよう。

問5 四字熟語

「以心伝心」は「考えていることが言葉を使わずにお互い通じ合うこと」を意味する。「以」と「似」は形が似ているので気を付けよう。

問6 読み方によって意味が異なる熟語

じょうず…物事のやり方がうまく、手際が良いこと。

かみて …舞台の、客席から見て右のほう。川の上流のほう。

うわて …技能・学力などが他よりも優れていること。

他にも「大家」（たいか・おおや）、「生物」（なまもの・せいぶつ）のように、読み方によって意味が異なる熟語がある。

意味と読みを組み合わせ覚えて覚えよう。

問7 「れる」「られる」の意味

「くれる」「くれる」には複数の意味がある。次の三つを押さえておこう。

「〜することができる」（可能）

「（誰か・何かによって）〜される」（受け身）

「〜なさっている」（尊敬）

今回の「言われている」は「おっしゃっている」と同じ意味である。よって、言葉を話している「歌舞伎役者の坂東玉三郎さんが」であるウが正解となる。